

調査

LOBO 早期景気観測

10月分 日商調査日 10月8日～18日
当所調査日 10月8日～20日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査
10月の全産業DI ▲28・9
(前月比+4・3ポイント)

○中小企業の景況感

緊急事態宣言などの解除を受けて、時短要請や行動制限が緩和され、外食・観光関連のサービス業では利用客の増加がみられた。

製造業、卸売業では飲食料品や電子部品関連が堅調に推移する一方、半導体不足や東南アジアでの感染拡大を背景とした部品の供給制約による、生産活動への影響が継続している。また、鉄鋼などの原材料費や、原油価格を含む資源価格の上昇、最低賃金引上げに伴う人件費の負担増加など、幅広い業種でコスト増加が足かせとなっており、中小企業の業況改善に向けた動きは厳しさが続く。

○先行き

先行き見通しDIは、▲21・6（10月比+7・3ポイント）。

活動制限緩和に伴う日常生活回復による、国内の観光需要回復、年末年

始の個人消費拡大への期待感が広がっている。一方で、半導体不足や部品供給制約による業績への影響、資源価格の高騰、円安の進行、原材料費上昇分の価格転嫁の遅れによる収益圧迫などへの懸念から、中小企業においては、先行きへの慎重な見方が続く。

【関東ブロックの業況についてのコメント】

海外からの電気機器の納期遅れにより工期に影響が出ている。また、銅の価格上昇により、ケーブルなどの電材価格が上昇しているが、販売価格に転嫁できておらず、収益を圧迫している（管工事業）。

緊急事態宣言の解除に伴い、出張などのビジネス目的の利用客が増加した。今後は県内旅行を促進する地元への支援策の再開が予定されており、さらなる売上の増加を期待している（宿泊業）。

【三所調査】

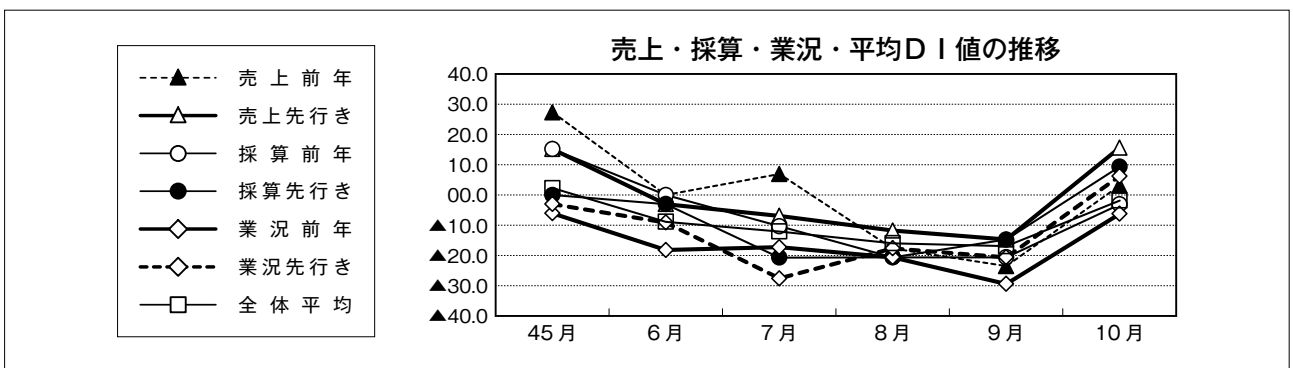
「5カ月振りの回復。緊急事態宣言解除による先行きへの期待高まる。」

全体平均DIは▲1・8で前月に比べ+15・1の増加。項目別では、売上先行き+30・3ポイント、業況先行き26・9ポイントと、先行き見通しに増加が見られた。

寄せられたコメントには、「緊急事態宣言が解除され、団体予約が入るなど、売り上げが好転に傾いている」（旅行バス・旅行業）、「緊急事態宣言解除と共に受注量が増加した」（織物手加工染色整理業）。緊急事態宣言解除による景況感の回復に期待が高まっているようだ。

(全産業) 水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	令和2年		令和3年					
	10月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
売上前年	▲ 54.8	27.3	0.0	6.9	▲ 17.6	▲ 23.5	3.1	
売上先行き	▲ 54.8	15.2	▲ 3.0	▲ 6.9	▲ 11.8	▲ 14.7	15.6	
採算前年	▲ 58.1	15.2	0.0	▲ 10.3	▲ 20.6	▲ 20.6	▲ 3.1	
採算先行き	▲ 58.1	0.0	▲ 3.0	▲ 20.7	▲ 20.6	▲ 14.7	9.4	
仕入前年	▲ 22.6	▲ 36.4	▲ 45.5	▲ 48.3	▲ 50.0	▲ 47.1	▲ 53.1	
仕入先行き	▲ 25.8	▲ 24.2	▲ 42.4	▲ 34.5	▲ 41.2	▲ 38.2	▲ 46.9	
社員前年	9.7	21.2	15.2	20.7	11.8	11.8	18.8	
社員先行き	6.5	9.1	12.1	13.8	5.9	14.7	25.0	
業況前年	▲ 64.5	▲ 6.1	▲ 18.2	▲ 17.2	▲ 20.6	▲ 29.4	▲ 6.3	
業況先行き	▲ 51.6	▲ 3.0	▲ 9.1	▲ 27.6	▲ 17.6	▲ 20.6	6.3	
資金前年	▲ 38.7	3.0	0.0	▲ 6.9	0.0	▲ 17.6	0.0	
資金先行き	▲ 22.6	6.1	▲ 12.1	▲ 13.8	▲ 8.8	▲ 2.9	9.4	
全体平均	▲ 36.3	2.3	▲ 8.8	▲ 12.1	▲ 15.9	▲ 16.9	▲ 1.8	



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するもの。